

日 時：令和元年7月28日（日） 14：00～15：30

場 所：尾口公民館2階 集会室

参加団体等：尾口連合青年団、瀬戸青年団、体育協会尾口支部、一里野観光協会
山ろく地区町会区長会協議会、ボランティアかたくりの会、老人会、女性の会、
子ども会、尾口公民館、白山市町会連合会など

発言【1】

サル対策について（鳥獣保護法、電気柵）

【市】

民家周辺での銃の使用は、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律で禁止されており発砲できません。

市では現在、猟友会による巡回捕獲、モンキードックによる追い払いの実施、石川県立大学で実施しているサル生態調査に協力をしているほか、獣害対策にドローン等を活用できないかを検討しており、今後とも猟友会と連携し捕獲の強化を図るとともに県、県警に対して、猟銃の使用に関する要望を検討してまいります。

また、本市では、電気柵等の侵入防止柵設置等に対しましては、H30年度末時点で100キロ以上の侵入防止柵（電気柵・メッシュ柵）を設置し、鳥獣害の対策を実施しています。今後は、侵入防止柵設置に対する補助金の増額をできないか、検討してまいります。

イノシシ対策につきましては、市内で捕獲及び死亡した感染野生イノシシ6頭（10月1日現在）を確認しており、感染確認区域における、野生イノシシの獣肉処理施設に対し、利用を自粛するよう要請しています。今後も捕獲調査をすすめ、感染状況の把握により、県と連携し感染拡大防止に備えてまいります。

発言【2】

尾添大橋、市の瀬橋の通行止めについて

【市】

尾添大橋は、橋台基礎部分が土砂崩れを起こしており危険な状態であるため当分の間、通行止めにしてあります。白山ろくの産業、地域の人々の生活の安定や災害時の迂回路として欠かせない道路であるため、橋梁のあり方や尾添～中宮～荒谷間のバイパスの件も含め国、県と協議してまいります。

発言【3】

白抜と鷲走の登山道の管理について

【市】

舗装している林道と舗装していない林道では壊れ方が全然違います。舗装されていない林道は傷みが激しく、人が通らないと増々傷みます。年1回の草刈りをしてはいますが、追いついていないのが現状です。今後、登山道の現況を見て状態が悪ければ根切り・低木剪定等を検討してまいります。日常的なところは皆様のご協力をお願いしたいと考えています。

発言【4】

ダムの方岸の迂回路について

【市】

現在、県にお願いして3車線化の工事を実施していただいています。道路を広げて3車線にしておく、山が崩れて危険な場合に1車線を通行止めにして、復旧工事ができ、残りの1車線を片側交互通行とし、完全に通行止めになることを防止できます。3車線化は災害対策の取り組みでもあります。

このように、国道157号において改築事業や交通安全施設事業を進め、災害に強い道路づくりを進めており、ダムの方岸の迂回路に関しましては、冬期間の除雪や交通量を考えますと非常に困難と考えています。(林道東二口線)

発言【5】

白嶺小中学校の生徒数の減少について

①地域の特色

②良さをアピール、お得な部分

【市】

①白嶺小中学校では従来から国際高等専門学校からの協力を受けており、近年では、科学の甲子園ジュニア全国大会に出場するなどの成果を上げており、今年度の特色としては、プログラミング教育の面から小中学生がサポートを受ける取り組みを実施しています。

これからも区長会・公民館・地区社協・青年団と国際高専の学生の知恵と力をお借りして、地域再生化に向けて継続的な活動を行ってまいります。

②この土地の良さを安売りするのではなく、良さや特色をアピールしていくことが大切と考えています。一里野では「温泉と雪遊び」を核とした旅行商品の企画開発を進めておりますし、白峰では農家民泊の検討を行ってまいります。市はこれらの

地域での魅力づくりを支援し、訪日外国人誘客の取り組みを各地域と協働で進めています。

また、「市民協働で創るまちづくり」の中で地域課題について協議する「新たな地域コミュニティ組織」の創設を進めており、若者や女性、子どもたちなど多様な人達と話し合っ、地域の“お得な部分”は何かを自分たちで考えて意見を出し合い、地域からも良さをアピールしていただきたいと考えています。

市では、定住支援事業においても地域の良さをアピールしています。日本各地に山が好き、田舎が好きという人がいます。もっと空き家バンクを利用して情報発信し、そうした人たちが空き家を活用し居住するようになれば、子どもたちも増えていくのではないのでしょうか。そのためにも各町内や親戚同士などでも呼びかけていただき、空き家バンクへの登録をお願いしたいと考えています。

白山ろく地域を優遇した事業として、以下の制度を実施しています。

- ・ 白山ろく地域定住促進奨励金

白山ろく地域で新築住宅を建てる方に100万円を交付

- ・ 白山ろく地域高等学校等通学費助成事業

白山ろく地域に居住する高校生の保護者を対象に、通学費の一部を補助

発言【6】

①青年団の交流について

②若者向けのイベントの開催

【市】

①白峰地区の若者グループ「シラミネ大学」や、鳥越出身のワカモノが集まってできた団体「鳥越ワカモノの会」など色々な会に、情報交換について働きかけてまいります。

また、青年団やその他の団体も集まったミーティングについては、白山市青年団協議会が中心となり実施していますので、その機会もご活用いただきたいと思います。

②若者向けのイベントとして、サマーフェスティバル HAKUSAN や白山スノーフェスティバルへの支援、白山一里野音楽祭の開催、また、ウルトラマラソンや白山一里野イルミネーションなどの大学及び高校との連携事業を実施しています。

また、創設を進めている「新たな地域コミュニティ組織」は、広域的な事業の実施や多彩な人材を有するなどのスケールメリットを活かして、既存の各種団体では

取り組むことが難しい事業を補い、地域全体を総合的に運営することを考えています。地域の若者や女性、子どもたちなど多様な人達と話し合って意見を出し合い、若い人たちを呼べるような企画などを地域からも提案していただきたいと考えています。

発言【7】

①サルの駆除について（発信機）

②耕作放棄地対策について

【市】

①本市でも県自然保護センターの協力を得ながら、捕獲したサル（成獣メス）に発信機を付け、群れの動向を調査し、効率的に捕獲・追い払いをする対策を実施しています。これからは、金沢工業大学、石川県立大学などと連携して、サルの駆除についても検討していきたいと考えています。

②耕作放棄地対策については、白山ろく里山活性化協議会がしいたけやブルーベリー、わらびなどの山菜類の栽培に取り組んでいるほか、吉野谷木滑地区では耕作放棄地の解消と所得の増大及び地域の活性化を目的にヒツジの肉・乳・毛を活用した特産品の開発を県立大学と、さらに鳥越神子清水地区では薬草栽培に金沢大学の協力を得て取り組んでいます。

また、2021年4月に「かなざわ食マネジメント専門職大学白山キャンパス」が白山市内に開校を予定しています。同学の取り組み案の一つとして、産学官の提携による協議会を設立し、市内の新しい食材の開発、食材の広報活動、食の商品開発などへの支援を行うことにより、本市の農業振興に貢献することが期待されます。本市として、この協議会に参画し、共に取り組んでいくことにより、地産地消の推進を図り、ひいては耕作放棄地対策の一助になればと考えています。

発言【8】

尾添の加賀禅定道の開発について

【市】

白山商工会議所から、「白山をアピールするなら、登山道を整備して、避難小屋で宿泊できるようにしたらどうか」との提案がありました。それがどこまで可能なのは、水の確保や環境省との連携など、これからの問題として考えていく必要があります。

加賀禅定道は、石川県自然環境課（白山自然保護センター）及び環境省の管轄と

なりますが、市としましては、一里野ゴンドラ山頂から、しかり場分岐点までの加賀新道及び檜新宮周辺・御仏供水道中で草刈り業務を実施しており、今後は傷んだ道標などを順次整備していく予定です。

発言【9】

老人クラブの活動補助金の対象経費について

【市】

老人クラブの補助金の対象経費は、社会奉仕活動、老人教養講座開催等及び健康増進事業等に必要な賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、備品購入費、使用料及び賃借料です。

上記の事業として、適切でない経費、例えば忘新年会の飲食費等は、補助金の補助対象外となります。

今後は、例えば老人会の行事に、女性の会・婦人会が協力して料理教室を開催し、老人会の皆さんと一緒に食事をする工夫を行うなど、各種の団体が連携することも必要だと考えています。

発言【10】

お年寄りが住みやすい地域づくりについて（昔の行商人制度、高齢者の移動手段）

【市】

遠方への移動手段に困っている場合は、農協の送迎バスで買い物に行く方法や行商みたいに運んでもらう方法があります。コープ石川だと、2軒まると無料で品物を持ってきてくれます。例えば、それを集落ごとに注文して、公民館に持ってきてもらうということも考えられ、そこから運ぶという工夫もできます。コープ石川には、白山ろくにどんどん入ってきてもらわないといけなくなるかもしれないから、考えておいてほしいと伝えています。

また、市では「新たな地域コミュニティ組織」を検討しており、その中で、免許返納されたお年寄りの交通手段について地域で話し合い、公共交通空白地の運送事業を実施することについては可能と考えています。